

限られた時間枠の実習で効果を上げるために

学校臨床心理専攻・信原孝司

1. 授業の概要

臨床心理基礎実習は、心理臨床の専門性について、特に基礎的な知識と技術の習得を主な目的とした実習型の授業である。また、この科目は、臨床心理士を目指す大学院生にとっては必修科目であり、履修者のほとんどが臨床心理士資格の取得を目指している。授業時間は、前学期の毎週月曜日3・4時限である。

2. 導入

授業では、昨年度の学生からの授業評価を参考とし、初回到授業予定を学生に周知徹底するようにしている。これによって学生は今後の見通しを持って授業に取り組み、事前に必要な分野を予習して習熟を深める等の効果を期待している。

以下は今年度の授業内容である。

授業回	3時限（知識）	4時限（技術）
1	オリエンテーション	
2	専門性，倫理	基本的関わり技法
3	心理査定	関わり行動
4	心理学的処遇	会話への誘い
5		明確化
6		感情や情動
7	様々な援助施設	要約技法
8		技法の統合
9	精神医学的知識	ロールプレイ10分
10	ロールプレイ20分	
11	試行カウンセリング	
12		
13		
14		
15		

3. 授業内容

3時限目はテキスト学習を中心とした基礎的な知識習得のための授業である。履修生を5グループに分け、担当項目の内容についてテキストをまとめ、関連項目について自分達で調べてきた内容を発表し、全体でディスカッションする。

4時限目は心理療法の基礎的な応答技術を習得するための授業である。3時限目と同様に各グループがテキストの担当項目をまとめた発表の後、関連項目の技法習得のためのビデオを視聴する。その後、3分ぐらいのロールプレイ（心理療法の模擬練習）を毎回実施し、最後に感想や質問を受ける時間を取っている。授業10回目は、20分と少し長めの時間でロールプレイを行った。

なお、授業11回目以降は、それまでに習得した知識と技術の総仕上げとして、試行カウンセリング（心理療法の本番を想定した模擬実習）に入る。これは、履修生が各自で相談者役割を取ってくれる学生（深刻な心理的問題を持っていない方）を探して依頼し、1回50分の心理療法の試行を5回に限って実施するものである。

3時限目・4時限目のテキストは以下のものを使用している。

3時限目テキスト：
鐘幹八郎・名島潤慈 編著 2000 新版 心理臨床家の手引 誠信書房

4時限目テキスト：
アイビィ，A.E.他 福原真知子 訳 1999 マイクロカウンセリング 基本的かかわり技法 丸善

4. 授業での工夫

盛り沢山の内容を限られた時間の中で効率的に習得するために、以下の工夫を行っている。

・発表資料をまとめる際、インターネットの情報に頼らず、学生が実際の書籍に当たるようにした。
・・・専門用語の説明など、インターネットの検

索で容易に調べられるものもあるが、出来るだけ専門書を読んで理解し、何が大切かを自分の頭で考えさせるようにした。

・学生が自分の意見を発表する形式(ディスカッション)を盛り込み、自身の考えの整理に役立てる。

・・・ディスカッションは毎回の授業で行なうが、学生の質問に教員が直接応えるのではなく、出来るだけ受講者全員でディスカッションし、自分で考えたことを発表し、知識や技術の整理に役立たせるように配慮した。

・ビデオ映像を利用し、学生の印象に残るような工夫を行う。

・・・知識や技術の習得に役立つよう、可能な限り心掛けた。

・毎授業の最後には、学生からの質問を受け付ける時間を設ける。

・・・授業が一方的なものとならないようにするため、授業の最後には感想を述べてもらい、質問を受ける時間を設けるようにした。

5. 工夫への課題

授業での工夫には、次に述べるような課題が残ったので、以下に考察してみたい。

の課題・・・インターネットの情報に出来るだけ頼らず、実際の書籍に直接当たるよう指示は出したものの、取り上げる数は任せていたので、発表グループによって引用文献や参考文献の数に偏りがあった。もう少し具体的に数字を示した方が適当であったかも知れない。

の課題・・・ディスカッションをどのように活性化させるかがここ数年の課題である。感想や質問を述べる学生を任意にして進行させているが、自発的に発表する学生が年々減じてきている印象がある。ただ、順番に当てていくと色々と自分の考えを発言してくれる。どのように自発的な発言に発展させ、ディスカッションを活性化させていくかは大きな課題である。

の課題・・・ビデオに限らず、出来るだけ視聴覚教材を使用したいと考えていたが、現時点では4時限目の技術の習得に限定されている。3時限目はテキストで取り上げる内容が盛り沢山であるため、視聴覚教材のための時間を割くことが難しい現状がある。テキストの内容を全て取り上

げるのではなく、もう少し精選して習得を深めていく方向も考えられる。

の課題・・・質問・感想に関しては、のディスカッションに繋がる課題である。順番に当てていくと発言してくれるが、自発的な発言は限られている。学生からの自発的な質問や感想を通して、授業内容を実り多いものに深めていくことが課題である。

5. 来年度に向けて

実習という授業形態であるので、学生の自発的な参加を促し、授業効果を高めたいと考えている。

全般的に、限られた授業時間の中に盛り沢山の内容が入っているので、実習内容の精選がまず必要と考えられる。

そして、学生の自発的な参加に繋がる授業形態となるよう、学生の意欲や関心を引き出せるような授業準備(とりわけ、授業で取り上げる内容と関連した情報、更に深める情報等が提示出来る準備)を考えていきたい。